

備蓄品箱詰め
障害者らと交流

四日市・暁中高校生

私立暁中学・高校(四日市市萱生町)の生徒が15日、同市別名の社会福祉施設「ラポールブルーミング」(後藤聖英施設長)で、入所者と一緒に災害用備蓄品の箱詰め作業を行い、交流を深めた。

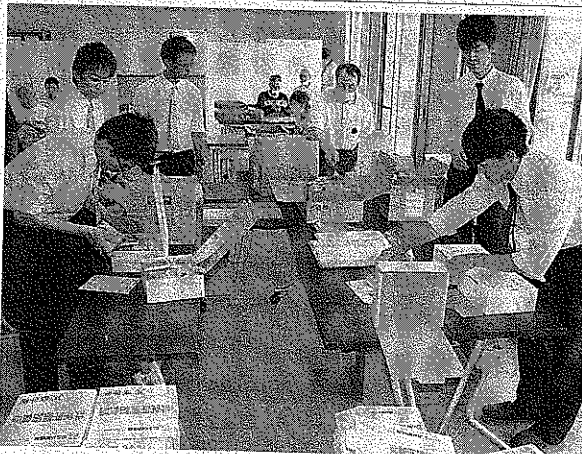
備蓄の必要性を啓発している「日本非常食推進機構」(古谷賢治代表理事、同市浮橋)が企画。普段は、同機

構の委託を受け、施設の入所者が箱詰め作業をしており、昨年度は約900個を同校に納品した。今年度は生徒の防災意識を高め、障害者への理解も深めてもらうため、実際に作業に関わってもらうことにした。

生徒会の執行部7人が参加。小箱の組み立て

て、備蓄品(缶入りパン、水、氷砂糖など6品)の箱詰め、ラッピング作業を入所者と協力しながらこなした。生徒会長の植田大蒼さん(高2)は「作業を通して防災の大切さを再認識しました。他の生徒にも今回の体験を伝えたい」と話していた。

【松本直良】



災害用備蓄品の箱詰め作業をする暁中学・高校の生徒ら＝四日市市の「ラポールブルーミング」で